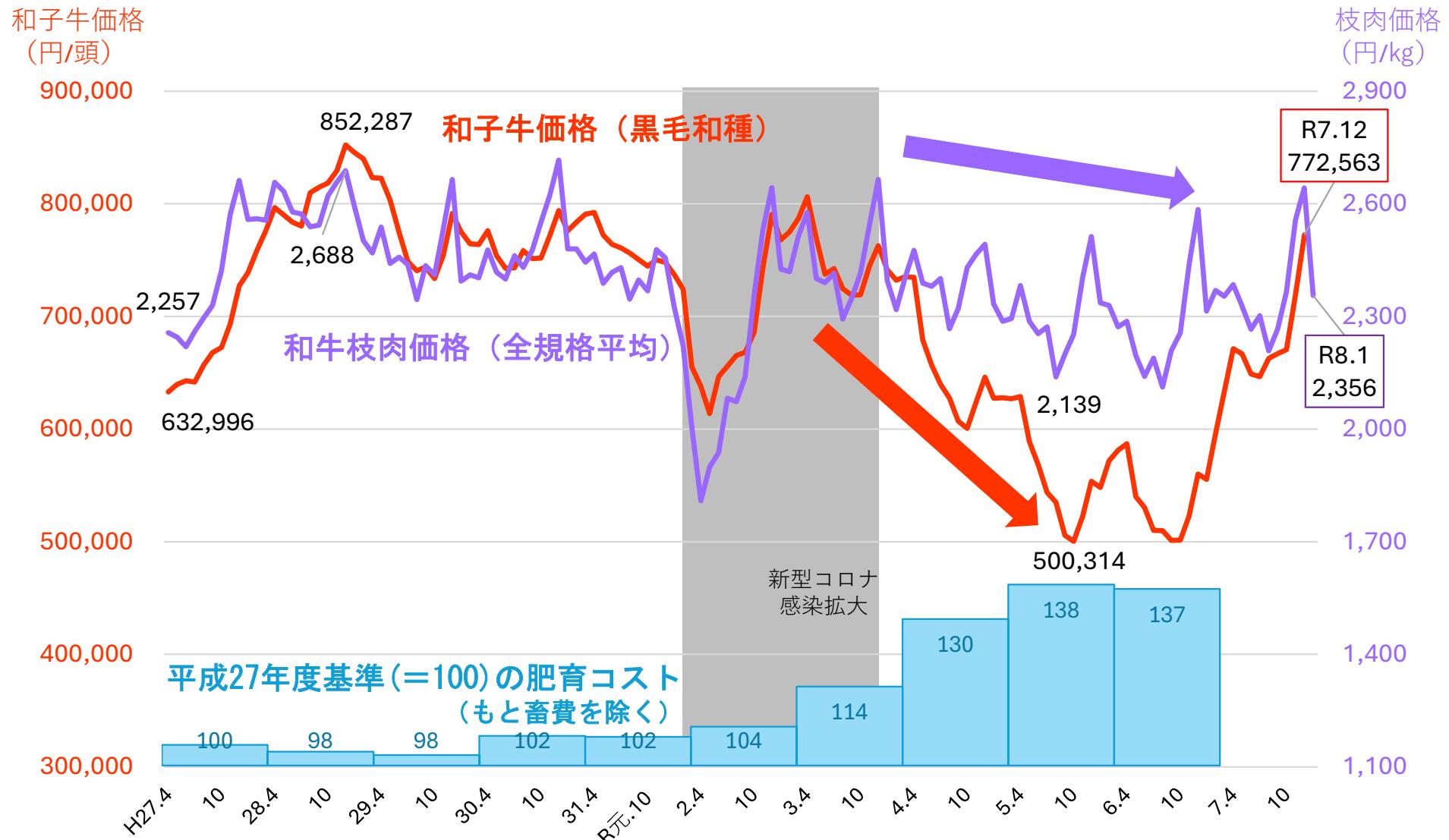


和牛肉の需給動向

令和8年2月版

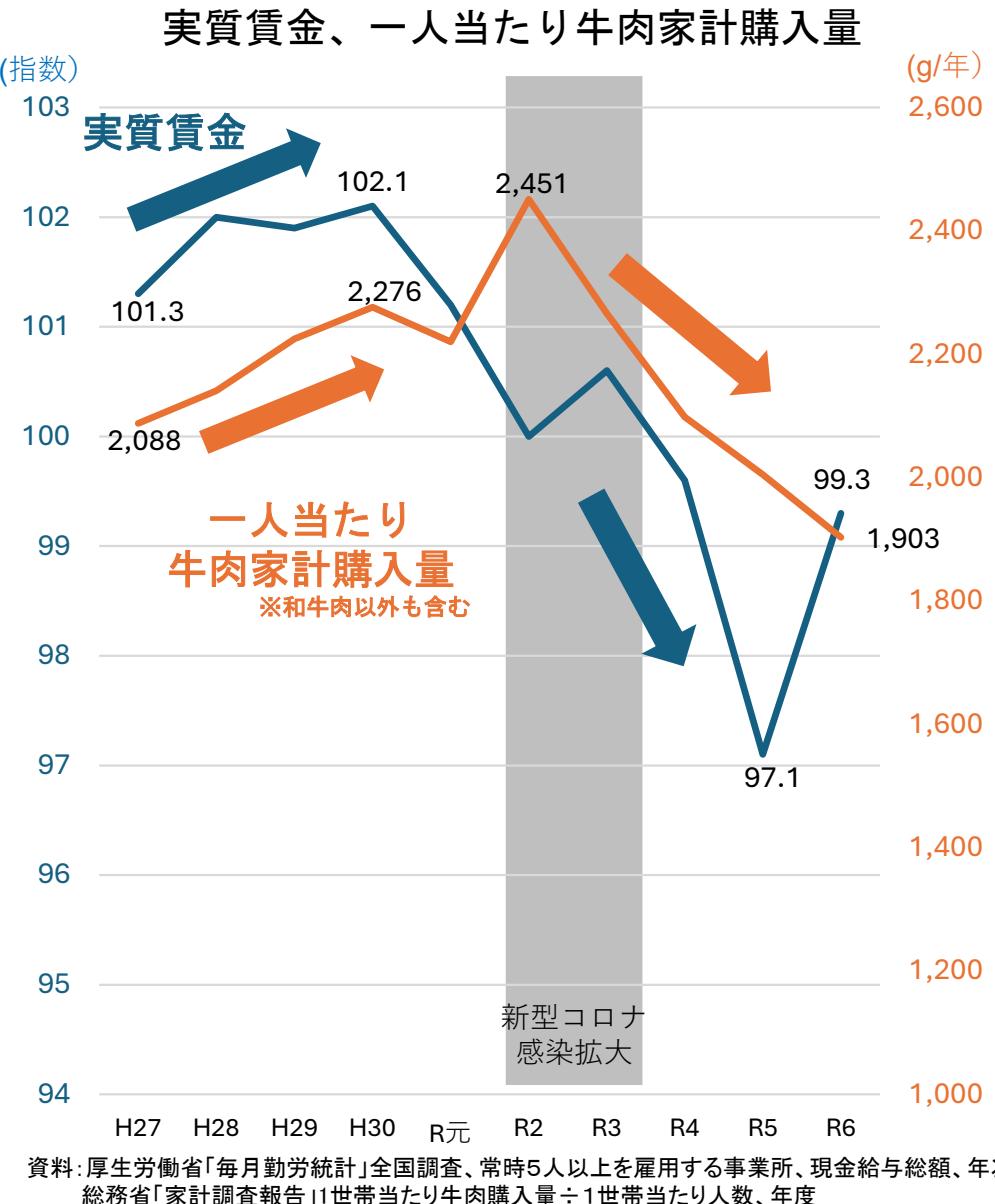
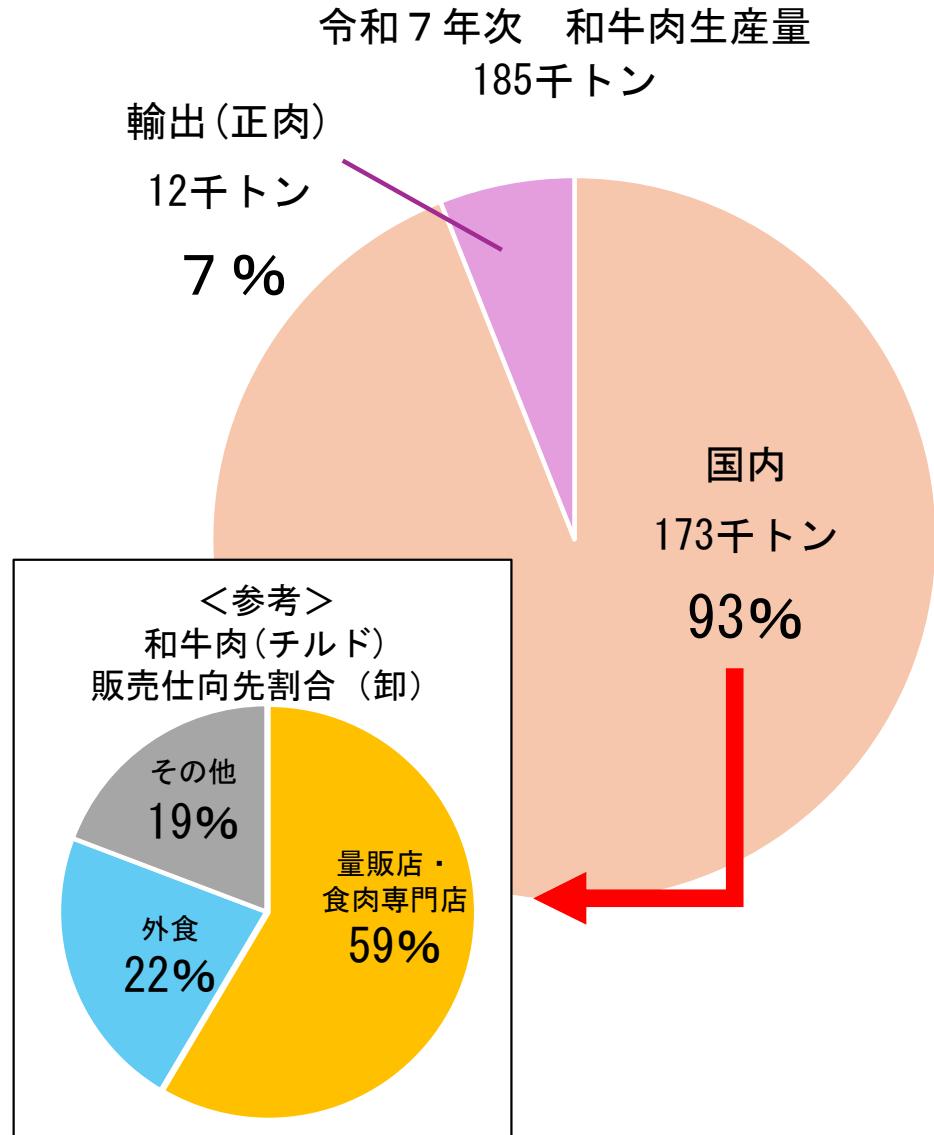
和子牛取引価格と和牛枝肉価格の動向

- 和子牛価格と和牛枝肉価格の変動には、一定の連動性が見られる。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大後、和子牛価格、和牛枝肉価格はともに下落したが、直近は回復。



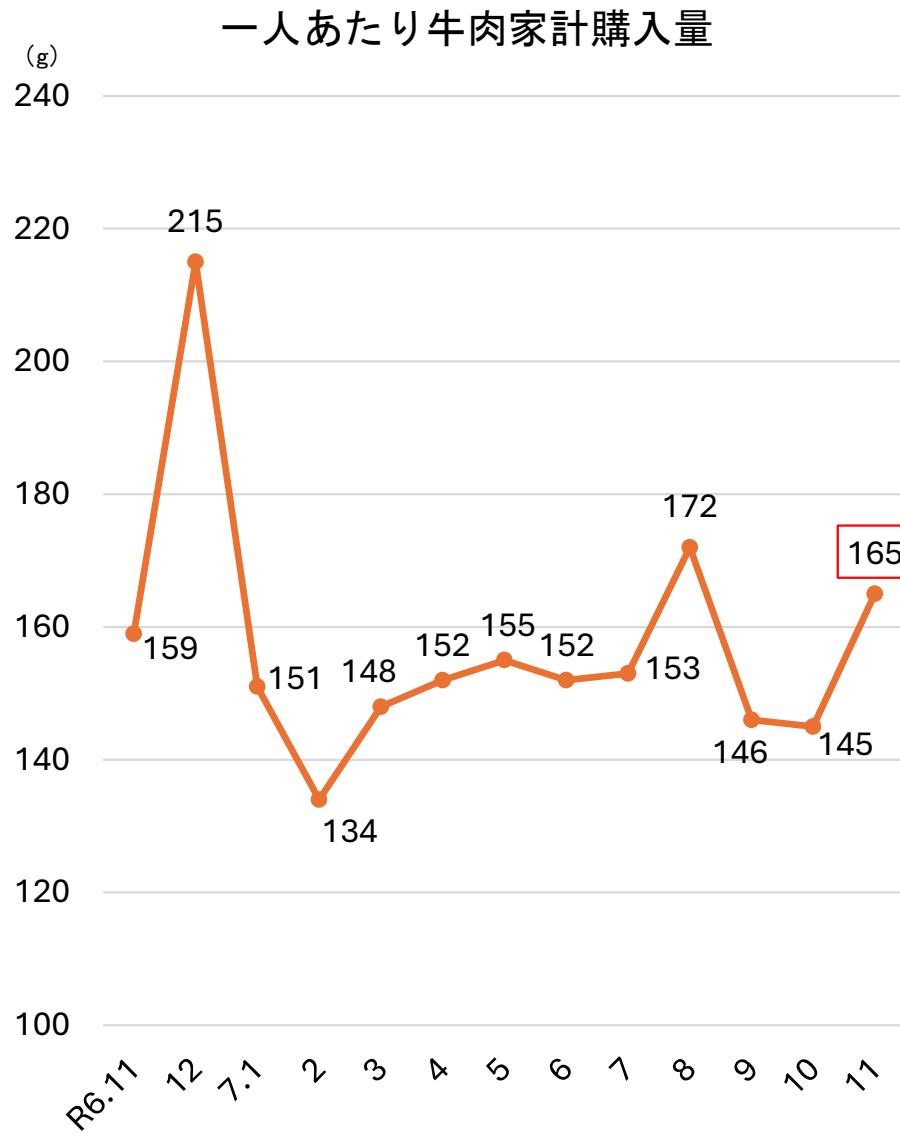
和牛肉の仕向け先、実質賃金と牛肉家計購入量の動向

- 和牛肉生産量のうち、国内仕向けは93%。国内仕向けのうち、量販店等向けが59%で最大。
- 実質賃金と一人当たり牛肉家計購入量の変動には、一定の連動性が見られる。
- 近年は実質賃金の下落に伴い、一人あたり牛肉家計購入量も下落傾向。



直近の牛肉の家計購入量等

- 一人当たり牛肉家計購入量は、年末年始需要のある12月に顕著な増加が見られる。
また年度末からGWにかけての時期や、夏休み・お盆の時期にも小幅な増加が見られる。
- 都市別の牛肉消費は西日本で多い傾向があり、多い地域と少ない地域で3倍程度の差が見られる。



資料:総務省「家計調査報告」1世帯当たり牛肉購入量÷1世帯当たり人数

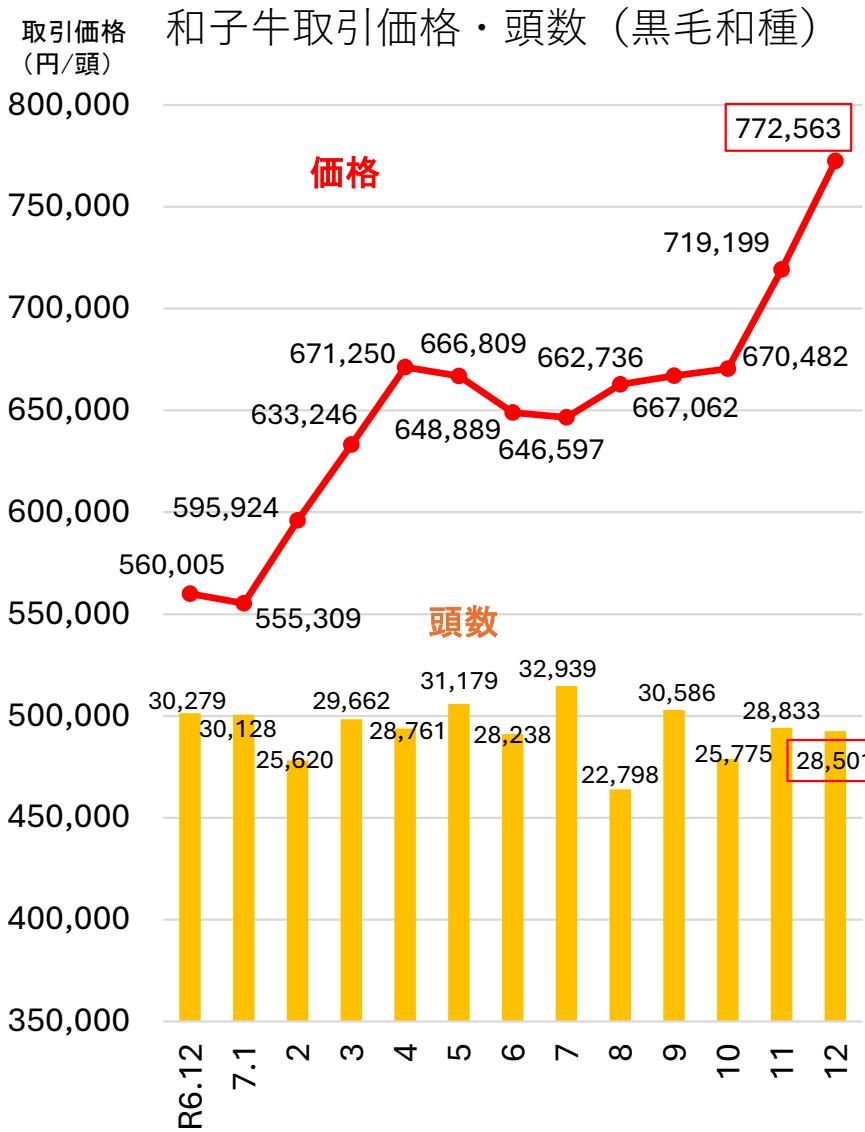


資料:総務省「家計消費」を基に作成

注:都道府県庁所在市及び政令指定都市の計52都市における2022年～2024年の平均購入金額及び数量を、各都市の3年間の世帯人数の平均で除して算出。

直近の和子牛取引価格及び頭数、和牛枝肉価格

- 和子牛価格は、最需要期である年末に出荷するもと畜となる2～4月頃に最も引き合いが強まる傾向。
- 和牛枝肉価格は、年末年始需要に向けて、11～12月頃に最も引き合いが強まる傾向。

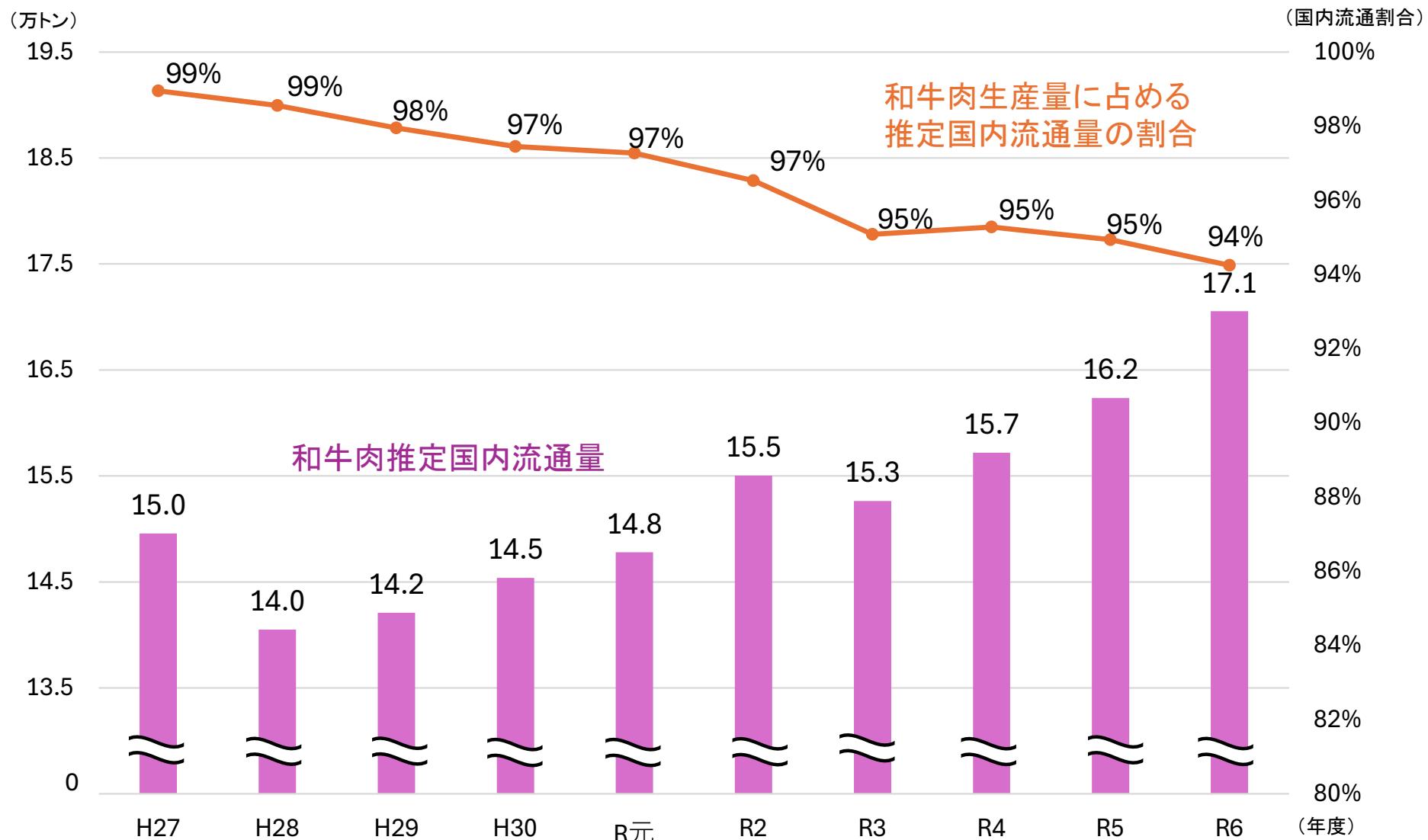


資料:ALIC「肉用子牛取引情報」(令和7年10月以降は速報値)

資料:農林水産省「畜産物流通統計」(中央10市場計)
令和8年1月は速報値(食肉鶏卵課調べ)

和牛肉の推定国内流通量の動向

- 和牛肉の国内流通量は増加傾向で推移。
- 和牛肉生産量に占める推定国内流通量の割合は、輸出量の増加により、微減傾向。

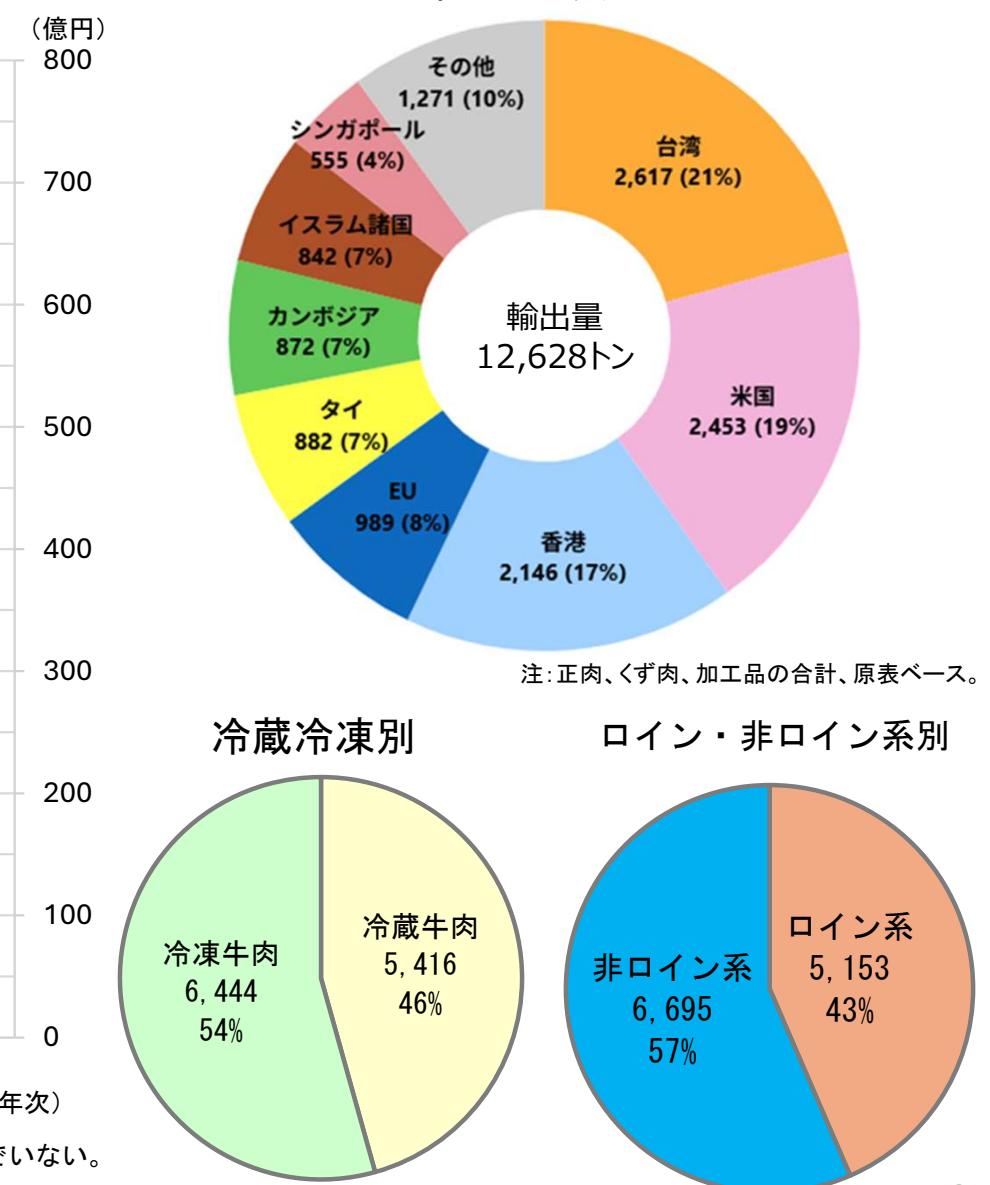
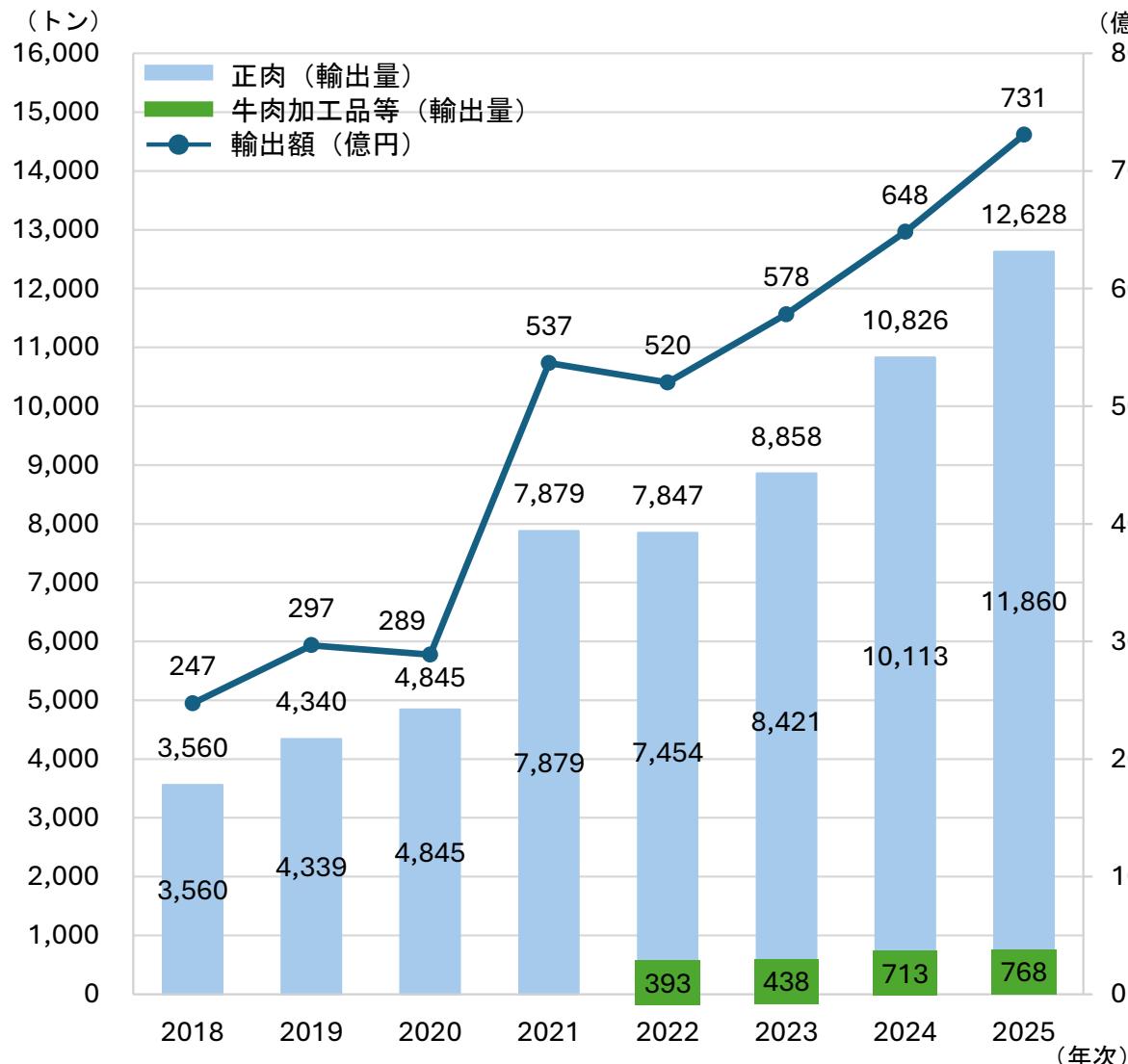


※推定国内流通量=生産量-輸出量

資料:農林水産省「畜産物流通統計」、財務省「貿易統計」より推計(部分肉ベース)

牛肉輸出の動向

- 牛肉輸出量は増加傾向で推移。2025(令和7)年次の輸出実績は、輸出量は12,628トン(前年比117%)。
- 輸出先は、台湾、米国、香港がそれぞれ約2割を占める。
- 輸出量全体に占める冷蔵牛肉の割合は約46%。またロイン系の割合は約43%。

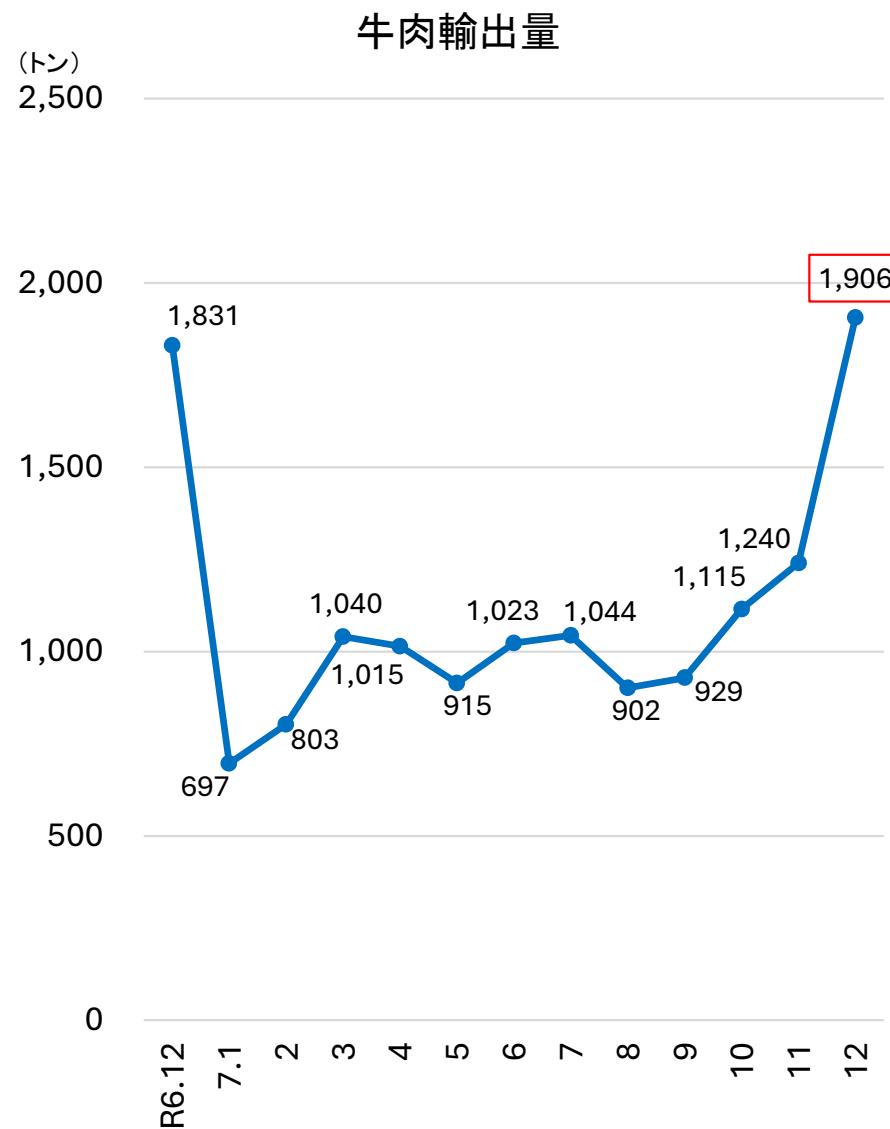
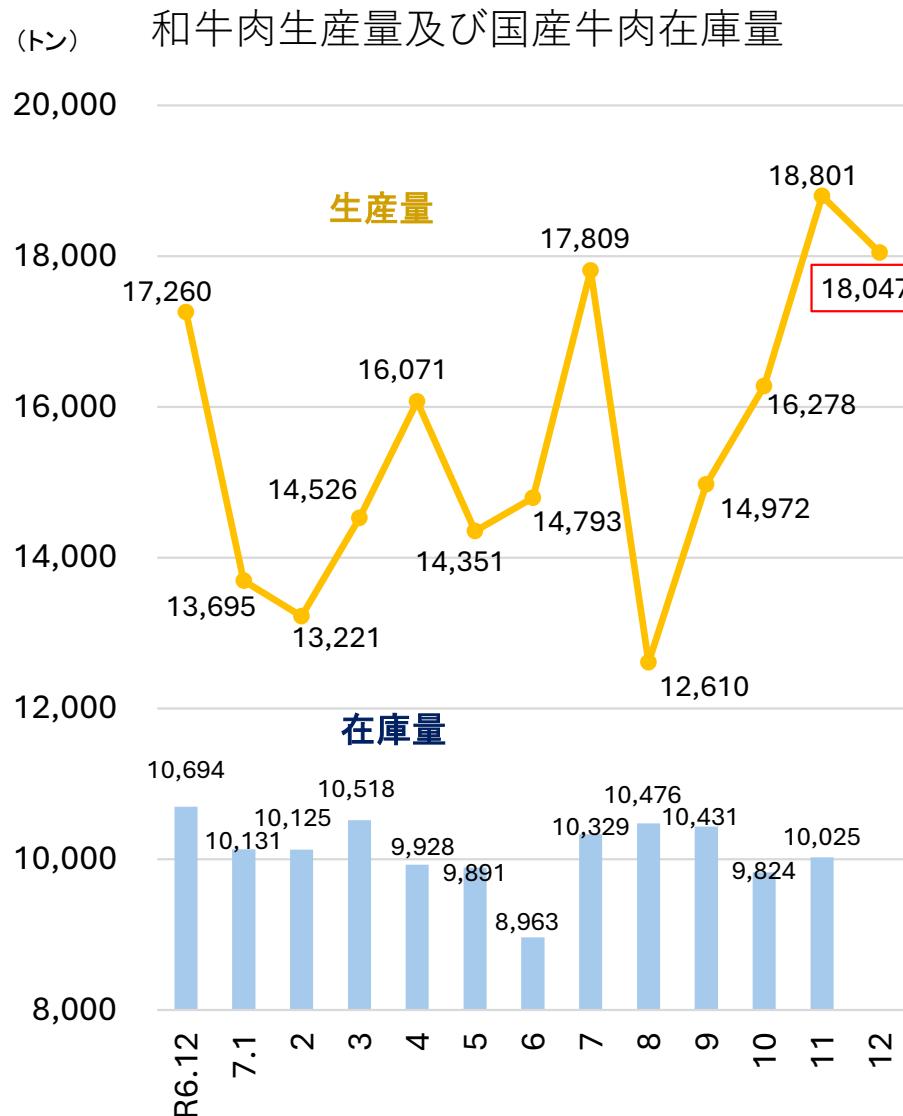


資料: 財務省「貿易統計」より作成

注: 正肉、牛くず肉、加工品の合計、原表ベース。ただし、2021年以前は加工品を含んでいない。

直近の和牛肉生産量、国産牛肉在庫量、牛肉輸出量

- 国内生産量は、年末需要に向けた11月に最も増加し、年度末や夏休み・お盆の時期にも増加が見られる。
- 牛肉輸出は、年間を通じて安定した取引が行われているが、12月は、次年分の米国低関税枠の早期消化に備え、枠の活用に向けた輸出量の増加が見られる。

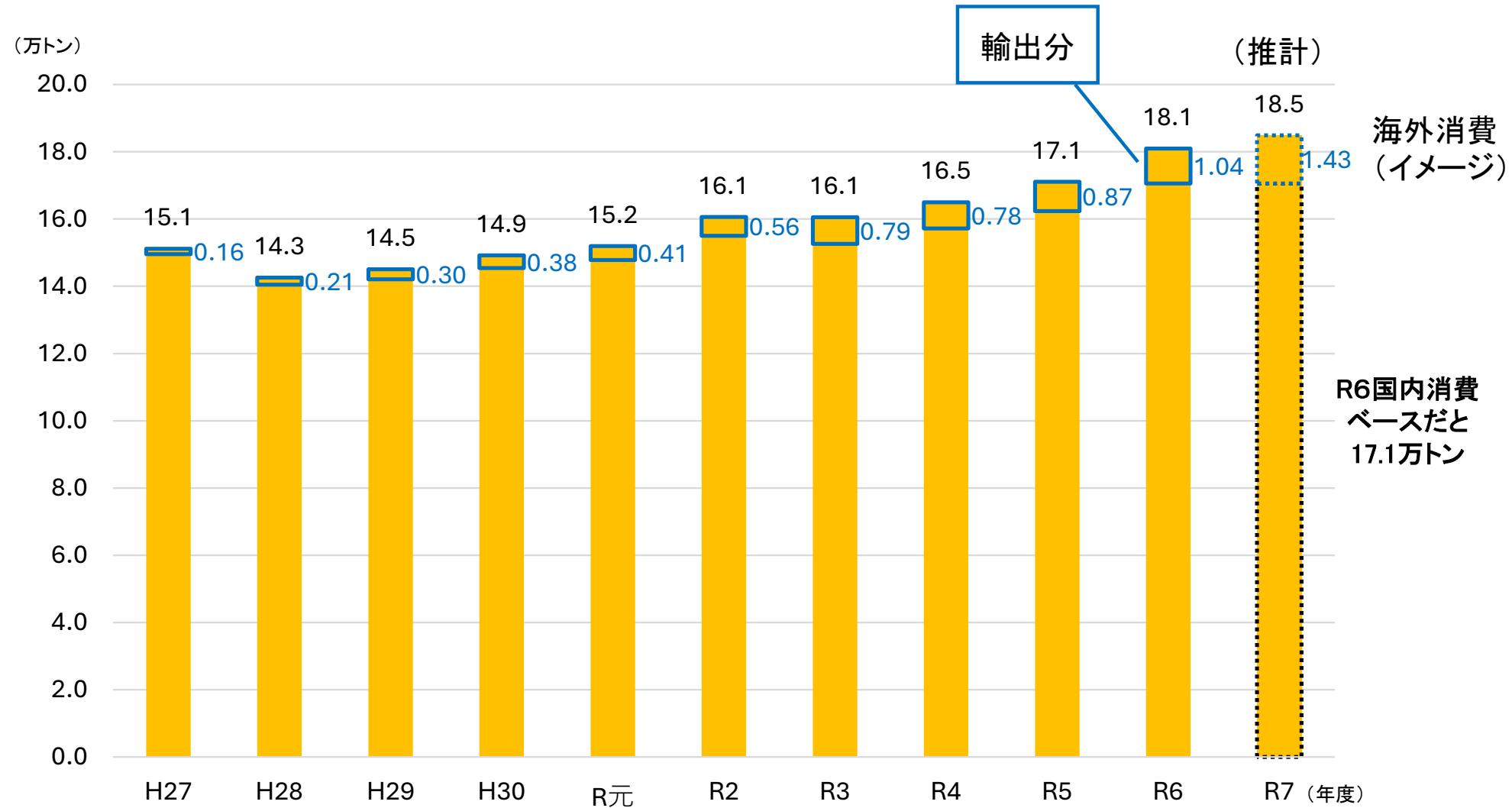


資料:農林水産省「畜産物流通統計」ALIC「牛肉の推定期末在庫(食肉等保管状況調査※)」
※ALICが日本冷蔵倉庫協会に委託し、全国の主要な冷蔵倉庫業者から毎月の月末の在庫数量を調査。
注:部分肉ベース

資料:財務省「貿易統計」

和牛肉生産量の推移と当面の見通し

- 和牛肉生産量は増加傾向で推移。
- 和子牛出生頭数等から当面の生産量を推計すると、令和7年度は18~19万トン程度で推移する見通し。

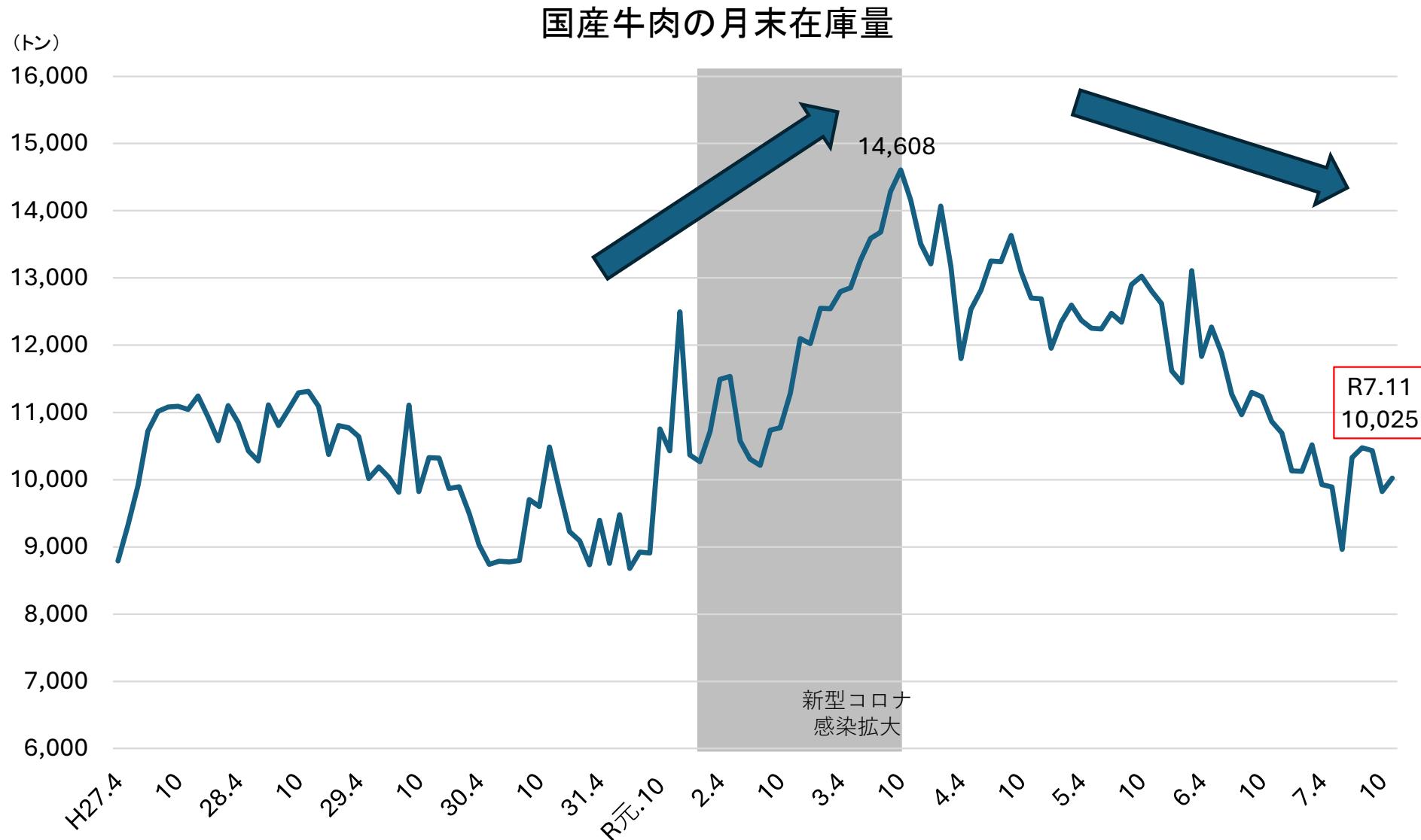


資料:農林水産省「畜産物流通統計」(R1~6)、食肉鶏卵課推計(R7)
※部分肉ベース

【R7の推計方法】
出生頭数等から推計したと畜頭数と、1頭当たり枝肉重量の増加トレンドを踏まえて推計。

【参考 1】国産牛肉の在庫量の動向

- 国産牛肉の在庫量は、新型コロナウイルス感染症感染拡大時期に増加し、その後、減少傾向で推移。
 - 直近の在庫量は、新型コロナウイルス感染症感染拡大時期以前の水準程度まで低下。

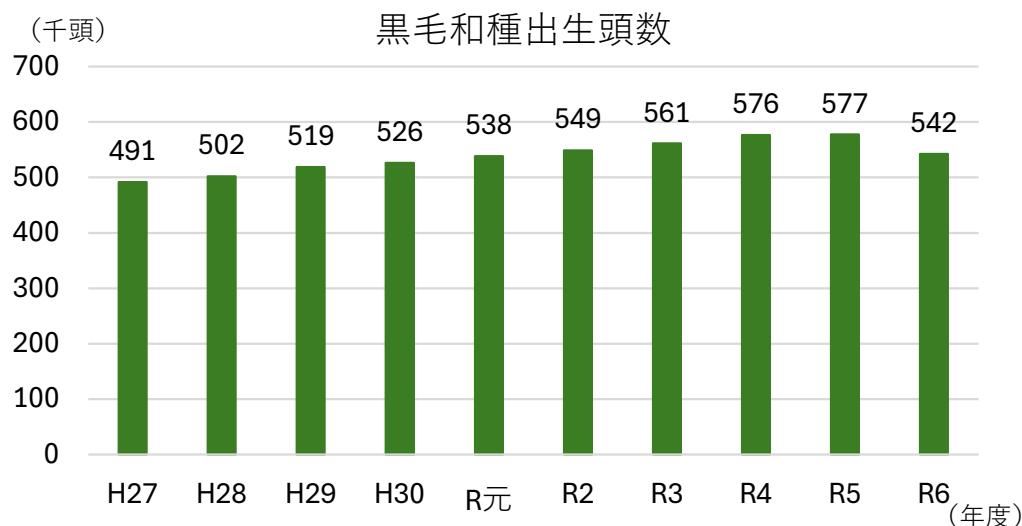
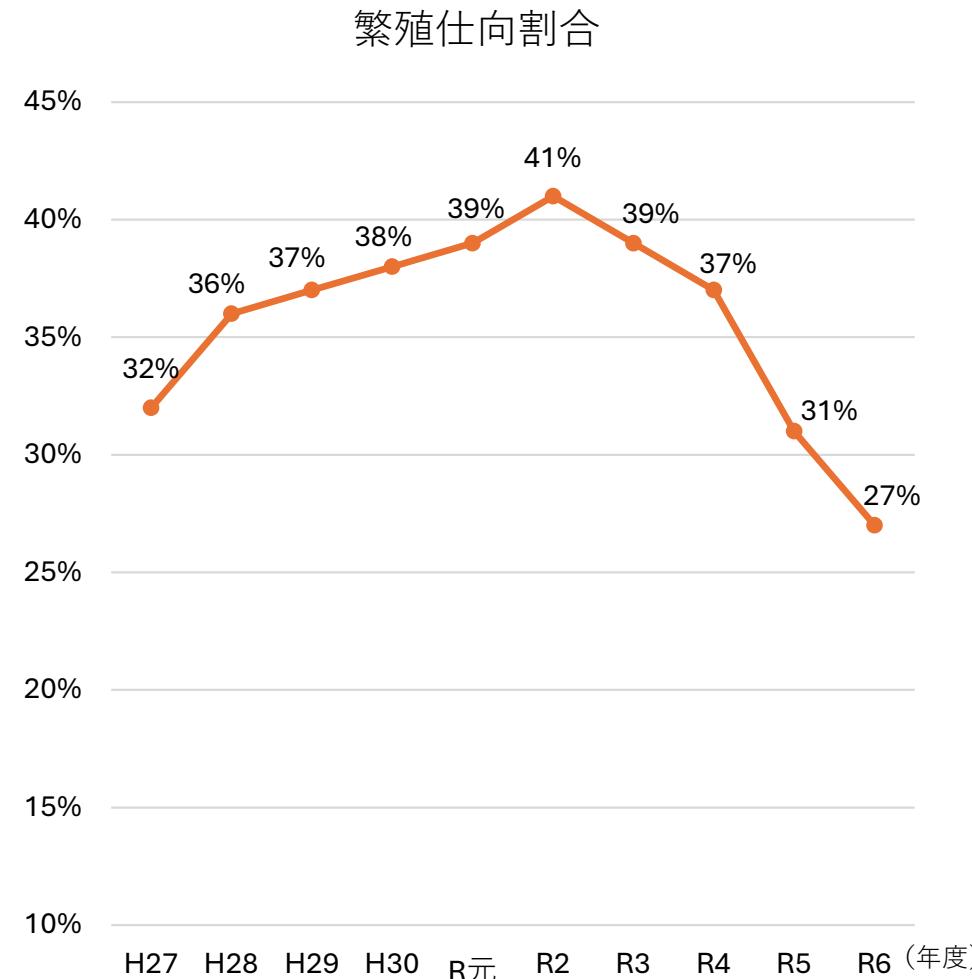
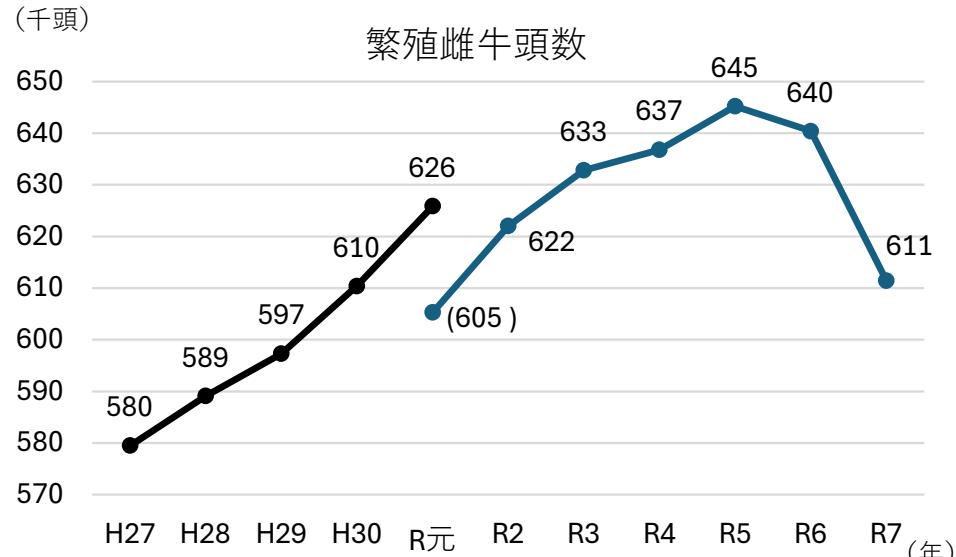


資料:ALIC「牛肉の推定期末在庫(食肉等保管状況調査)」

※ALICが日本冷蔵倉庫協会に委託し、全国の主要な冷蔵倉庫業者から毎月の月末の在庫数量を調査した結果。

【参考2】繁殖雌牛頭数、繁殖仕向割合、和子牛出生頭数の動向

- 和子牛生産の源となる繁殖雌牛頭数は、令和5年まで上昇傾向で推移してきたが、令和6年から減少傾向。
- 17カ月齢時点での雌牛の繁殖仕向割合は、令和2年度をピークに下落傾向。
- 黒毛和種出生頭数は、近年、繁殖雌牛頭数の増加等に伴い、増加傾向で推移してきたが、繁殖雌牛頭数が減少に転じたこと等により、令和6年度は前年度から減少。



和牛肉の需給動向（まとめ）

消費	令和7年9月	10月	11月
	一人あたり牛肉家計購入量(g)	146 (87%)	145 (99%)
生産	令和7年10月	11月	12月
	肉用子牛(黒毛和種)取引頭数(頭)	25,775 (90%)	28,833 (92%)
	価格(円)	670,482 (134%)	719,199 (138%)
	令和7年10月	11月	12月
	和牛肉生産量(トン)	16,278 (102%)	18,801 (98%)
	令和7年11月	12月	令和8年1月
	和牛枝肉卸売価格(全規格)(円/kg)	2,557 (105%)	2,642 (102%)
	令和7年9月	10月	11月
	国産牛肉在庫量(トン)	10,431 (92%)	9,824 (87%)
	令和7年10月	11月	12月
輸出	国産牛肉輸出量(トン)	1,115 (126%)	1,240 (120%)
	令和7年11月	12月	令和8年1月
	和牛枝肉卸売価格(全規格)(円/kg)	2,356 (102%)	2,356 (102%)
	国産牛肉在庫量(トン)	10,025 (92%)	10,025 (92%)

資料:総務省「家計消費」、ALIC「肉用子牛取引情報」「牛肉の推定期末在庫(食肉等保管状況調査)」、農林水産省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」
注:()内は対前年同月比

肉用子牛取引価格及び頭数の令和7年10月以降は速報値

和牛枝肉卸売価格の令和8年1月は速報値(食肉鶏卵課調べ)